

平成 25 年度 研究紀要 第 33 集

研究テーマ

座間市の郷土史にかかわる教材の開発について

教育課題研究会

古川 修
平野 綾子

倉田 敦子
藤沖 亮

1 はじめに

座間市では、「座間らしさ」を大切にした学校教育を展開する第一歩として、平成 16 年度から「豊かな心の育成」を学校教育の重点主題として定めた。

その後、平成 21 年度から 22 年度にかけて、およそ 2 年間検討を重ねて「豊かな心を育むひまわりプラン」を策定した。平成 23 年度から全校（小学校 11 校・中学校 6 校）で豊かな心を育む取り組みを行っている最中である。

2 研究のねらい

「ひまわりプラン」の中には、「こんな大人になってほしい」という、子どもたちが目指す大人像が明記されている。児童・生徒たちがこの大人像の具体的なイメージを持つためにも、また自分たちの郷土に関心と誇りを持つためにも、座間の歴史の中で「めざす大人像」に当てはまる活動をした人物を数名選び、その人の生き方を教材とする事が有効であると考え、その教材の開発をすることにした。

3 研究内容

(1) 郷土史の中から紹介したい先人の選定

「めざす大人像」に該当する先人の候補は何人も挙げられたが、私たちはその中から鈴木利貞氏を選んだ。

鈴木利貞氏は明治の中頃から座間全体に極めて大きな影響を与え、子どもたちの自治組織である「幼年会」を通して、いじめや差別のない理想の村づくりを説き続けた教育者であった。

(2) 鈴木利貞氏とは

利貞氏は明治 15 年に座間村で自営農家の次男として生まれたが、子どもの頃は体が弱かったために、外遊びより室内で本を読むことが好きな少年であった。体が弱かったことからいじめられた経験を持ち、いじめ等のない社会を作りたいと考えていた。

その後、彼が成長すると近所の子どもたちを自宅に招き、おもしろい話を語り聞かせる合間に、自分たちの村は自分たちの手でよくする、貧富や性別、身分などの違いによる差別がない世を作るなど、理想の村作りについて説き続けた。

やがて彼のもとに集まった子どもたちは、自分たちの集団を「幼年会」と名づけ、いじめやいたずらをしない、などの約束を自分たちで考え、実行していくようになった。また、利貞氏自身も小学校の教員となり、挫折や苦難を乗り越えて、この考えを村内すべての子どもたちに広めていくことになった。そして、その教えは現在でも受け継がれている。

(3) 資料の編集

鈴木利貞氏や幼年会に関する資料や文献は多数あり、まずその内容を理解するのに時間を要した。しかしその資料すべてを教材にするには多過ぎるため、市史編纂委員をはじめ様々な方の意見も聞いた。その結果、「利貞氏が目指したものは何か」をテーマとして定め、それに基づいた内容を組み立てていく形で編集をした。

4 研究の成果

この教材開発に携わったことにより、「気品ある教育尊重の街」を作ろうとした先人の教えを知り、その志の高さに驚いた。この研究を行わなければ、その先人の思いに触れることもなかった。その点から言って、本研究に関われたことにより、私たち自身の心に座間への愛着と誇りが芽生えている。

5 今後に向けて

今年度中に教材の開発を終え、来年度に印刷したものを各校に配付したいと考えている。その後、各校で道徳の時間等を利用して活用してもらえるように、活用例などを作成することが今後求められる。教材の開発後は、その作成にとりかかる予定である。